

■ HRD FINE ART 展覧会開催のご案内 ■

南條 敏之 個展 shelterbelt ～ 亭々と／点綴と

会 場： HRDファインアート（京都市上京区上御霊壱町494-1）

会 期： 2020年 12月19日（土）～ 2021年1月30日（土）

※年末年始（12月31日～1月2日）休廊

時 間： 木曜日 11:00～15:00

金・土曜日 11:00～19:00

（日～水曜日も事前の予約により観覧可能です）

【展覧会概要】

HRD ファインアートでは、2020 年最後の（そして 2021 年最初の）展覧会として、写真作家・南條敏之の個展「shelterbelt」を開催します。

本展では、日本各地の海岸防砂林の風景を捉えたシリーズ「shelterbelt」の作品を約 20 点展示します。2011 年の東日本大震災によって被災した地域で撮影された作品も含まれます。

南條敏之は 1972 年東京生まれ。自然や風景を中心的なテーマとし、高度な写真技術をベースに、精緻で静謐でありながら、詩的な余韻も感じさせる格調の高い画面の写真作品で知られています。長年にわたって取り組み続けてきた水面に映る太陽の光の痕跡を捉えた「suns」のシリーズに加え、近年では新たなテーマとして海岸防砂林に着目した「shelterbelt」のシリーズにも力を入れています。

海岸防砂林は、近世以降の日本の沿岸部で人の手によって植えられ整備されてきた人工林であり、いわば「改変された自然」です。松など、沿岸部の痩せた土地でも育ちやすい木を植林して障壁を設けることで、人間の居住・経済環境への砂や風、塩の侵入を阻止することを目的としていました。現在ではその役割も変質し、自然景観保護の対象となっているものもあります。日本人は伝統的に（西洋文明とは異なり）自然と共存する関係を築いてきた、という言説が昨今流布していますが、そうした一面的な「日本人の自然観」に、南條はこれらの作品を通じて小さな疑義を投じています。

自然とは何か。人工とは何か。そしてそのそれぞれの「美しさ」とは何か。南條敏之の写真作品は、私たちが自然や風景に向ける眼差しを揺さぶり、より豊かなものへと改変するのです。

本展開催に合わせて、「shelterbelt」シリーズの作品を収録した写真集を刊行予定です（詳細は未定）。

【アーティストからのメッセージ】

防砂林は「白砂青松」などによばれ、日本人と自然との調和や共生を象徴する風景の一つとみなされています。しかし、その歴史はそれほど古いものではなく、多くは17世紀ごろから造られ始めました。明治維新・恐慌・太平洋戦争を節目に、いくつもの松林が姿を消していきました。戦後、再び植林が始まった防砂林は密度が高く、風景を遮断しています。津波によって多くの海岸林が失われた被災地では、整然とした構造物としての松原の再生が進んでいます。

砂と風を引き受けうねり、傾いてしまった松を眺めていると、「日本人の自然観」の側面が見えてくるように思います。日本人と自然との関わり方に、もう一度丁寧に、緻密な眼差しを向けなおす必要があるのではと思えてくるのです。

南條 敏之

お問い合わせ：HRD FINE ART（エイチアールディー・ファインアート）

住所：〒602-0896 京都市上京区上御霊壱町494-1

電話：090-9015-6087（担当：原田）

ウェブ：<http://www.hrdfineart.com>

Eメール：info@hrdfineart.com



【展示作品】 (予定)



shelterbelt motoyoshiwara 元吉原 2017

インクジェットプリント 22.5×30cm 2017年



shelterbelt kisakata 象潟 2019

インクジェットプリント 32.2×43cm 2019年

【作家略歴】

南條 敏之

Toshiyuki NANJO

1972 東京生まれ
1994 東京工芸大学短期大学部写真技術科卒業
現在、神奈川在住

主な個展

2012 「南條敏之 新作展」 Space O'NewWall (ソウル)
2014 「ぬなやかな鏡」 mujikobo (横浜)
2015 「suns」 HRD ファインアート (京都)
2017 「suns / signs / spectators」 HRD ファインアート (京都)

主なグループ展

2008 「Blue Dot Asia」 Seoul Arts Center (ソウル)
「Let There Be Light」 Gallery Hangil (パジュ)
2008-09 「Floating Odyssey 2008」 Waterloo Gallery (ロンドン) / Exhibit Live & Moris (東京)
/ Book House Art Space (パジュ)
2009 「余韻/響き～日本の写真作家3人展」 Hyun Gallery (ソウル)
2010 「ながめる まなざす DIVISION-3」 UP フィールドギャラリー (東京)
2014 「チャンウォン・アジア・アート・フェスティバル」 ソンサン・アートホール
(韓国、チャンウォン)
「Out of Photographs #3」 mujikobo (横浜)
2015 「鏡 - Reflected Images」 川崎市市民ミュージアム (川崎)
2016 「CORRESPONDENCE LANDSCAPE 016」 工房親 (東京)
2019 「Boundaries／おわりとはじまり ～ 日独写真作家展」 HRD ファインアート (京都)

作品収蔵

川崎市市民ミュージアム (川崎)

【感染対策について】

HRD ファインアートでは、展示プログラムの再開にあたり、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大防止対応として、以下の措置を導入・実施いたします。

① オープニングレセプションの中止

従来、展覧会初日にアーティストを囲んでオープニングレセプションを開催してきましたが、当面の間これをすべて中止します。

② 検温・マスク着用・手指消毒の徹底

ご来場の方は、事前(当日)に検温をお願いいたします(会場で非接触式体温計による検温をお願いする場合があります)。37.5℃以上の熱のある方や咳等の呼吸器症状のある方はご来場をお断りします。また、来場時はマスクの着用をお願いします。健康上の理由等によりマスクを着用することができない場合は、事前にお申し出ください。また、ギャラリー入口に設置する手指消毒用のアルコールでの手指消毒をお願いします。

③ 来場人数制限の実施

ギャラリー内の混雑を避けるため、来場人数の制限を設け、ギャラリーへの入場をお待ちいただく場合があります。

④ 臨時休業・完全アポイント制への移行の可能性

新型コロナウイルスの感染拡大を見極め、状況に応じてギャラリーを臨時に休業、または事前アポイントによる完全予約制とさせていただく可能性もあります。こうした場合は、ギャラリーのウェブサイト www.hrdfineart.com や SNS のチャンネルを通じて、なるべく早い段階で告知を行います。

以上